

第2章 高等学校におけるコンピュータを 活用した授業改善の視点

目 次

第1節 高等学校における情報教育の進め方	3
第2節 情報活用能力の育成	3
第3節 コンピュータを活用した学習指導の留意点	8

第2章 高等学校におけるコンピュータを活用した授業改善の視点

第1節 高等学校における情報教育の進め方

高校生の頃は、一人一人が主体的に試行錯誤する中で、自立した個を確立し、自己実現を図る時期であると言われます。また、他者とともに生きることを自覚し、豊かな社会的自立を図る時期でもあります。この時期の生徒たちに育成する力としては、社会の変化に的確に対応しながら、主体的に学び、考え、判断し、表現し、行動する力を最も重視すべきであると考えられます。

高等学校教育の改善充実に関する調査研究協力者会議は、「高等学校教育の改善充実について」と題した報告（平成9年9月18日）の中で、高等学校教育における基本的な内容について、次の四つの視点を重視すべきであると指摘しています。

- ア) 主体的に学び、考え、判断し、表現し、行動する力、特に、自ら課題を発見し、それを解決していく能力を重視すること。
- イ) 体験的、実学的、実社会に密着した内容を重視すること。
- ロ) 自己の生き方・進路への自覚を深める教育を重視すること。
- ハ) 生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感等の豊かな人間性の育成を目指し、自然体験や生活体験を通じての心の教育の充実を重視すること。

そして、「生きる力」の育成を図るための教育内容の充実を図るとともに、指導方法を見直し、日々の授業改善を推進する必要があると強調しています。

このような視点から情報教育の進め方を考えるとき、学校教育全体における情報教育の役割は何なのか、コンピュータを活用した学習指導はどうあるべきか、情報活用能力をどう育成するのかなど、実践を積み重ねながら具体的な方策を見出すことが、教員自身の重要な課題となってきます。

第2節 情報活用能力の育成

1 育成すべき情報活用能力

情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議の第一次報告である「体系的な情報教育の実施に向けて」（平成9年10月3日）（以下、「協力者会議報告」という）は、育成すべき情報活用能力を次のように焦点化し、系統的、体系的な情報教育の目標として位置付けることを提案しています。